

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---|
| 事業名 | 震災アーカイブを活用した自立的な学びと語り継ぎの仕組みづくり事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 白馬村 (教育委員会事務局生涯学習スポーツ課) 0261-85-0726 / gakushu@vill.hakuba.lg.jp |
| 事業区分 | (4) 安全・安心な地域づくり |
| 事業タイプ | ソフト・ハード |
| 総事業費 | 1,685,200 円 (うち支援金: 1,284,000 円) |

事業内容

2014年に発生した長野県神城断層地震において、地域に多くの被害が生じたものの、住民の助け合い・支え合いにより死者を出すことなく災害を乗り越えることができた。

予測困難な次なる災害に備えるためにも、被災時から復興に至る様子をデジタルアーカイブとして保存・公開するとともに、学校教育や社会教育で活用することで、地域住民の防災意識の高揚を図るとともに、語り継いでいく仕組みを構築する。

- ・学校教育における震災アーカイブを活用した学び
- ・公民館講座と連携したガイド養成・住民の学び
- ・村外からの防災学習を受け入れるツーリズムでの学び
- ・各種学習成果の発表 (展示・報告会)
- ・QRコード付アーカイブ看板の設置 等

事業効果

小学校6年生を対象に身近な地域の災害を想定して避難計画を策定して避難経路の危険箇所等を確認した。

アーカイブサポーターの自主的な学習会において、地震・水害・土砂災害・雪害など地域の過去の災害を年表化して災害アーカイブ展や文化祭等で展示し、多くの住民の防災意識を高めることができた。

公民館講座「山麓めぐり」でアーカイブ看板 (QRコード付) を活用して受講者に被災当時の状況について語り継いだ。

新たなアーカイブ看板を設置し、フィールドワークでの学びを深める環境を整備することができた。

今後の取り組み

学校での地域防災学習を継続し、地域の教育カリキュラムに組み込む。
 公民館講座においても震災アーカイブを活用して神城断層地震を語り継ぐ。
 アーカイブサポーターを中心に村外からの視察も受け入れ、他地域も含めた防災・減災に貢献する。
 令和6年度には神城断層地震から10年を迎えることから、これまでの学びや活動の成果を発表し、改めて多くの住民が防災・減災を考える機会とする。
 各地区の自主防災組織や支え合いマップづくり・更新作業等の連携も模索する。



小学校のフィールドワーク

【目標・ねらい】

- ① 学校における地域防災教育
- ② 公民館講座と連携した地域住民の防災意識向上
- ③ 学びの成果発表・情報発信
- ④ 看板設置による学習環境整備

※自己評価 【 B 】

【理由】
 予定していた事業を実施し、多くの住民への啓発を行うことができたほか、今後の語り継ぎに向けた仕組みづくりや環境整備を行うことができたため。